

# 社会科学習指導案

## 単元名「 アジア州 」

令和2年10月21日(水) 第5校時 1年3組教室

1年3組 指導者 藤木 遥

### I 単元の構想

#### 1 身につけさせたい資質・能力および児童生徒の実態

	身につけさせたい資質・能力	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・アジア州の国々にみられる経済発展とその課題は地域的特色の影響を受けていることへの理解。</li><li>・アジア州に暮らす人々の生活と、その地域的特色の理解。</li></ul>	雨温図やグラフ、主題図の読み取りに慣れておらず、地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読みとることの読み取りに困難を感じる生徒が多いと考えられる。前単元や本単元で図形表現図、階級区分図等の読み取り方を丁寧に扱いたい。
思考力、判断力、表現力	<ul style="list-style-type: none"><li>・アジア州の国々にみられる経済発展とその課題を、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力。</li></ul>	複数の情報や知識を関連付けて考察することに慣れていない生徒が多い。前単元「世界各地の人々の生活と環境」において、人々の生活の特色やその変容の理由を、自然や社会的条件などに着目をさせながら多面的・多角的に考察、表現する活動を取り入れていく。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"><li>・アジア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする力。</li></ul>	男子を中心に、発言をしたり、積極的に活動に取り組めたりする生徒が多い。経済発展や人口問題に関わる課題を視点にして、1つの国だけでなく、アジア州全体の地域的特色を、興味、関心をもちつかめるよう問いかけをしていきたい。

#### 2 目標

- ・アジア州の国々にみられる経済発展とその課題は、それら見られる地域的特色の影響を受けていることを理解する。
- ・アジア州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を大観し理解する。
- ・アジア州の国々にみられる経済発展とその課題を、地域における共通性や多様性、地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・アジア州について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

#### 3 評価規準

##### 【知識・技能（ア）】

- ・アジア州の国々にみられる経済発展とその課題は、それらが見られる地域的特色の影響を受けていることを理解している。
- ・アジア州に暮らす人々の生活を基に、その地域的特色を大観し理解している。

##### 【思考力・判断力・表現力（イ）】

- ・アジア州の国々にみられる経済発展とその課題を、地域における共通性や多様性などに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。

##### 【主体的に学習に取り組む態度（ウ）】

- ・アジア州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 単元計画および指導方針 ※評定に用いる評価は囲い文字

時 刻	避	学習活動	評価	指導方針
1	つかむ	1 アジア州の自然環境 ○資料からアジア州の地形の特色と、季節風による気候の違いをつかむ。 ○単元の課題をつかむ。	ア ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の導入としてアジア州クイズを取り入れ、それぞれの国の特徴や独特な文化や風習にふれることでアジア州の国への興味や関心を高めさせる。</li> <li>気候帯や食文化を扱う時には、1学期の既習事項である降水量によって栽培に適した農作物が異なることを想起させる。</li> <li>資料の読み取り能力をつけさせるために、気温図や主題図は複数のものを比較することで読み取れる情報が増えることを全体で確認する。</li> <li>近年経済成長しているアジア州の国々が多いことに触れ、アジア州の人口の多さ、労働賃金の安さ、外国企業の参入等を視点にその要因を考えさせ、単元全体を通して追究させる。</li> <li>各時間の終わりに単元の振り返りシート（ベン図）を用い、授業を振り返りわかったことや気づいたこと、疑問を残せるようにする。</li> <li>生徒の振り返りを次の授業の冒頭で読み上げることで、全体の既習事項の確認を図る。</li> <li>予想や資料から読み取ったことをペアで発表する活動を取り入れ、多角的な意見にふれたり、自信をもって発表できるようにしたりする。</li> </ul>
2		2 地域によって異なるアジアの農業や文化 ○アジア州の中でも多様な農業や食文化、宗教の信仰があることを理解する。	ア	
3	追究する ・ まとめる	3 経済発展を急速にとげた中国 ○中国が経済発展した要因とそれに伴う生活の変化について調べ、まとめる。	ア イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の持ち物や家にあるものからアジア州で生産されたものを見つける活動をすることにより、学習内容を身近なものとして考えられるようにする。</li> <li>人口が1億以上いる国々をランキング形式で挙げさせることで、アジア州に人口を多く抱える国が多いことに気付かせる。</li> <li>中国の人口ピラミッドを提示し、今後の変化や起こりうる課題を予測させることにより、人口増加を抑えるために中国がとった一人っ子政策について理解させる。</li> <li>シンガポール、マレーシア、タイの労働賃金表を提示することで、東南アジアの国々は外国企業の参入を促していることを理解させる。</li> <li>インドにある日系自動車メーカーの自動車販売店の写真等を提示することにより、外国企業の参入が進んでいることに気付かせる。</li> </ul>
4		4 自立の道を歩む東南アジア ○東南アジアの工業化の要因を調べ、まとめる。	ア イ	
5 本 時		5 産業の発展が急速に進む南アジア ○インドが急速に経済発展した要因を既習内容から予想し、調べまとめる。	ア イ	

6	<p>6 資源が豊富西アジア・中央アジア ○西アジア・中央アジアの経済発展の要因を調べ、今後力を入れるべき産業について考える。</p> <p>○単元の振り返りシート（ベン図）を作成する過程で見いだした、アジア州の国々の経済発展や人口問題に関わる課題を踏まえて、アジア州の地域的特色を自分の言葉でまとめる。</p>	<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ	<p>・他のアジアの国々に比べ、人口を少なく、厳しい気候の西アジア、中央アジアで、豊かな生活を送る人々の資料を提示することによって、経済成長を支えている産業に関心をもたせる。</p>
---	--	--	---

## II 本時の学習

### <ねらい>

前時までに習得した知識を基に、インドの経済発展の理由を予想し、複数の資料から読み取った情報を関連付けることで、インドの経済発展の理由を考察することができる。

学習活動	指導上の留意点
<p><b>1 インドが近年急速に経済発展していることをつかむ。（10分）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インドを含む経済発展が著しい5カ国がBRICSと呼ばれている</li> <li>・GoogleやMicro softの経営トップがインド人である</li> <li>・特にICT関連産業の分野で経済発展している</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;めあて&gt; インドは、なぜ急速に経済発展しているのか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街の風景、紙幣に印字してある15の言語、カースト制についてのスライドを用意し、インドについてのイメージを膨らませる。</li> <li>・農業はもちろん工業も著しい成長をしていることがわかるGDPのランキング等の資料を提示し、インドの経済発展を印象付ける。</li> </ul>
<p><b>2 めあてに対する予想をし、検証する。（12分）</b></p> <p>T：今まで学習してきたことをもとに、予想を立ててみよう。</p> <p>S：中国では、経済特区をつくって、海外企業を招いた。人口の多さも生かしていたので、人口の多いインドもそうなのでは。</p> <p>S：中国や東南アジアでは、労働賃金が安く、労働者が多いので、海外企業が進出して工業化した。インドにも海外企業が進出しているのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の中国、東南アジアの経済発展の要因を想起させ、インドの経済発展の理由を予想できるようにする。</li> <li>・読み取りが難しいと思われる資料は、ヒントを出しながら全体で確認する。</li> </ul>
<p><b>3 インドという国ならではの要因を調べ発表する。（15分）</b></p> <p>T：他に、インドならではの要因はないのかな。資料から見つけて、ワークシートにまとめてみよう。</p> <p>S：インドはレベルの高い数学の教育をしているから優秀なプログラマーが多いのだと考えました。</p> <p>S：アメリカとの時差が12時間で、英語が話せる人が多いのでアメリカの企業がインドに目をつけ、進出したのだと思いました。</p> <p>S：ICT関連産業はカースト制と関係なく就ける職業ということもわかりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から読み取れたことを、ペアで確認し意見交換させる。</li> <li>・1つ1つの資料からわかったことを書く欄と最終的な考察を書く欄を設け、段階的に考察できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【思考・判断・表現】（ワークシート・観察）</b> 既習事項をもとに、めあてに対する予想を立てている。資料から読み取ったことを元に、インドの経済発展の理由を考察している。</p> </div>

**4 めあてに対してわかったことをまとめ、授業の振り返りをする（13分）**

**<まとめ>**

インドは、労働力が豊富で労働賃金が安い。アメリカとの時差や数学、英語の能力の高さが生かされICT関連産業が発展したことが影響し、急速に経済発展している。

**<振り返り>**

インドでも人口の多さ、人件費の安さから経済発展していることがわかった。また、インドの国の特徴を生かしてICT関連産業が発展したことがおもしろいと思った。

- ・まとめの文章を書くのが困難な子には、板書の重要なキーワードを○で囲み、それらを用いるように指示をする。
- ・振り返りは、視点を与えて書かせるようにする。

**<板書計画>**

**5 南アジア**

**めあて** **インドはなぜ急速に経済発展しているのか。**

→ICT 関連産業

パソコン、ソフトウェア

**<予想>**

- ・人口が多い 世界2位
- ・労働賃金が安い
- ・海外の企業が進出してきた



**<インドならではの理由>**

- ・数学の教育に力を入れている

・英語

- ・アメリカとの時差が12時間

→アメリカが夜の時、インドで作業できる

**まとめ**

労働力が豊富、労働賃金が安い。

アメリカとの時差や数学、英語の能力の高さからICT 関連産業が発展し、急速に経済発展している。